

ふれあい

第 180 号

令和 5 年 9 月
青森県立中央病院
(題字は藤野院長)



医療安全管理室の紹介

医療安全管理室長
佐藤 伸之



今年度から医療安全管理室長を拝命しました。ところで医療安全ってよく聞くけれども、具体的に何をするとところなのか分からない方も多いのではないのでしょうか。院内でも、何か事故があれば取り調べに来るところ、ああしろこうしろと指図するところ、といった捉え方をされている面もあります。医療安全の重要性が言われるようになったのは、日本の医療安全元年とも言える1999年、患者を取り違えて肺と心臓の手術をしてしまった事件、消毒薬を間違っ注射して患者が死亡してしまった事件など重大事件が立て続けに起きてからです。これらは刑事事件に発展し社会的にも大きな関心を集めました。現在、多くの病院に医療安全管理室が設置され対策に当たっています。重大事故が起きてしまった場合、誰がやった、誰が悪い、と言った犯人探しではなく、どうしてこのようなことが起きてしまったのか、どうすればそれを防ぐことができるのかという、発生要因の分析と事故を起こさないための予防措置が大事であり、それを担っているのが医療安全管理室です。例えば消毒薬の誤注入事件では静脈注射に使う注射器と同じものに消毒薬を準備していたのが大きな問題であり、注射器はそれ以外の用途には使わない、というのが抜本的な対策になります。間違わないように気を付けなさいではなく、間違えることができないようにするのです。人は誤りを犯すことが前提であり、1件の重大事故の背景には29件の軽症事故、300件のヒヤリ・ハットが存在すると言われていています(ハインリッヒの法則)。重大事故を防ぐにはそこまでには至らなかった多数のインシデントを分析していくことが重要になりますが、そのためには皆さんからのインシデント報告が必要です。インシデント報告は懺悔ではなく、より病院をよくしていくための取り組みであり、多いに越したことはありません。最近では事

象が起きる前に阻止することができました、という前向きな報告をいいね報告として集めることもしています。他には医療安全研修会の開催、医療事故の対応、急変・緊急対応の整備(Rapid Response Team活動が開始されています)、医療安全ニュースの発行、青森地域の病院同士で施設間ラウンドなどを行なっています。

安心安全な医療を提供するためには医療者側の努力だけではだめで、患者さんご家族の協力が重要です。現在患者さんへのお願いとして、患者間違い防止のために名前、生年月日を名乗ってもらうこと、入院中はリストバンドを装着してもらうこと、持参薬の確認、転倒防止の注意事項などがあり、何度も繰り返し確認しているはずです。これらもこれまでのインシデントや重大事故を受けての対策として行なっているものです。面倒に感じることも多々あるとは思いますが、一緒に安全な医療を実現していきましょう。



写真：医療安全管理室スタッフ一同
(前列左から二人目が筆者)



カンファレンス風景

放射線治療について — 腫瘍放射線科の紹介 —

腫瘍放射線科部長
横内 順一



構成員と業務について

腫瘍放射線科外来は平成5年9月1日現在、常勤医師2名(2名とも放射線治療専門医)、診療放射線技師7名(3名は放射線治療専門技師、1名は医学物理士兼務)、看護師5名(1名はがん放射線療法看護認定看護師、5名とも形成外科外来兼務)、受付事務員1名、非常勤専門医師1名、非常勤医学物理士1名で構成されており、主に直線加速器(Linac)を用いた悪性腫瘍に対する放射線治療を行っています。Linacでの治療の他にIridium-192を用いた小線源治療(子宮頸癌を主な対象としています)や放射性医薬品であるRadium-223を用いた核医学治療(骨転移のある去勢抵抗性前立腺癌が対象です)などを行っています。

放射線治療について

1895年にレントゲン博士がX線を発見し、レントゲン写真が医療で利用され、すぐに治療にも応用されました。その後は表在性の病変にRadiumが利用され、1950年代頃からは深在性病変に遠隔操作でCobalt-60などが利用されるようになりました。しかし病巣のみに限定して照射することは技術的に困難であったことと、CTなどの画像診断技術がなかったため正確に病変を把握できないため精度に限界があり、正常組織を含めた広範囲への照射が避けられませんでした。

現代の放射線治療を行う対象疾患の大多数は悪性腫瘍患者で、LinacでX線や電子線を照射しています。高品質の診断画像(CT, MRI, PETなど)を利用して照射範囲を正確に設定、毎回の治療体位の再現性を確保、位置合わせをすることにより治療精度が向上しました。また、治療装置、治療支援装置(コンピューター)の進歩と高品質保証、ネットワーク化によって高精度放射線治療が実現できるようになり、放射線治療の総線量、分割回数の自由度が広がり、副作用の軽減、従来の放射線治

療法では実現困難であった総線量増加、照射期間の短縮などが可能となり、その結果治療成績の向上、QOL向上などが期待できるようになっています。

また、日本には世界で最も多くの粒子線治療施設があり、一部の疾患には医療保険も適応されています。残念ながら当院を含め青森県では実施不可能ですが適応となる患者さんで希望される場合は紹介できるように医療連携も構築されています。

今後の課題

将来の青森市民病院と合併時に最新の放射線治療装置を導入して青森県の“がんセンター”として十分な機能を果たしていきたいと考えています。導入、維持には多額の資金を要するという問題もありますが、最新の放射線治療機器や画像処理技術を導入、運用するためには人材確保が課題です。様々な専門職種が連携して効率よくチーム医療を行うことが最重要です。偶然この記事をご覧になった医療系の学生、あるいは将来医療工学系への進学を考えている中高生みなさん、放射線治療を仕事にすることを考えてみる機会になれば幸いです。



県病ゲノム検査室がCAP認定 ～世界水準の品質で検査を提供～

青森県立中央病院は、平成30（2018）年よりがんゲノム医療連携病院として、遺伝情報に基づいたがん治療を受けられる体制を整備してきました。その一環として、臨床および研究において遺伝子検査の結果を診療に用いるため、国際基準に準拠したゲノム検査室を開設しました。

ゲノム医療部・部長およびゲノム検査室・室長である北澤 淳一先生と専任の臨床検査技師2名が業務を行っているゲノム検査室は、令和5（2023）年3月にCAP（米国病理医協会；College of American Pathologists）の認定を取得しました。CAP認定とは、世界45ヵ国、7,600施設以上の臨床検査室が取得しているもので、世界標準の手順で検査を実施していることの証になります。すでに国内で健康保険適応のある検査だけでなく、自費診療の対象となる新しい検査についても品質が保証されますので、がんゲノム検査を受ける患者さんが安心・安全な医療を受けられることにつながります。

※国内202ヶ所のがんゲノム医療連携病院の中では全国初の認定です。

北澤部長とスタッフのインタビューから

ゲノム検査を実施する設備やCAP認定取得には、2017年12月に「県立中央病院の医療の充実、発展に役立ててほしい」としていただいた寄付金の一部が活用されています。その期待に応えるべく、少しでも早く県民の皆様のがんゲノム医療をお届けしたいという気持ちで取り組んでまいりました。

現在ゲノム検査室で実施している主な検査は、特定の抗がん剤に対する副作用の危険性を予測する検査、血液腫瘍の診断を補助する検査、肺がんや甲状腺がんに対して特定の治療薬の効果が期待できるかどうかを判定する検査です。これらはいずれも健康保険適応のある検査になります。今後は、より幅広いニーズに応えるべく、自費診療の検査も含めて実施できる検査項目を増やしていく予定です。

北澤部長とスタッフのインタビューから

（右前：北澤淳一部長 左前：臨床検査部 三上技師長）



以前よりは改善しているものの、2020年の青森県民の平均寿命は男女ともに全国最下位でした。そして、青森県民の死因として最も多い悪性新生物（がん）は増加傾向があります。しかし、がん治療は進歩を続けている分野であり、がんと診断された方の約半数は10年後も生存できる時代になっています。そのため、臨床検査を通じてがんを早期発見することや、がん患者さんを適切な治療に結びつけることが大事で、それにより青森県の平均寿命もさらに改善していくことが期待されます。

ゲノム検査室が取得したCAP認定では、皆様のご存じのSDGs（Sustainable Development Goals）にも通じるような継続性も求められています。患者さんに正確な検査結果を届けることと並行して、ゲノム検査にかかわるスタッフの育成にも力を入れ、継続的に質の高い検査を提供できるようにしていきたいと考えています。



患者さんやご家族のための

県立中央病院近く

宿泊施設のご案内

◎遠くから県立中央病院等へ通院・入院する患者さんや、付き添われるご家族のための宿泊施設です。



宿泊(1室1泊 前金制 税込)

シングル	(全8室)	2,500円
ダブル	(全1室)	4,000円
ツイン	(全2室)	5,000円
駐車料金	(1台)	100円

【利用案内】

- ◆下記の電話番号へご連絡下さい。直接来館しての申込も可能です。
- ◆日帰り休憩も可能です。(2時間600円～)
- ◆周産期の患者さんやご家族は、ダブルを2,500円で利用できます。

【受付時間】

月曜日～土曜日 8:00～18:00

チェックイン 13:00～17:00

チェックアウト 8:00～11:00

※上記時間外の対応も可能です。

MAP



【施設概要】

客室設備：ベッド、エアコン、テレビ、冷蔵庫、机、椅子、電気ポット等
共用設備：トイレ、洗面所、シャワー室、電子レンジ、コインランドリー
その他：タオルや石鹸などアメニティ類は備え付けておりません。(有料貸出・販売での対応)

【ご予約・お問い合わせ】

☎ 017-736-5332

- ◆お電話にて、氏名・連絡先・希望の宿泊日(日程、人数)等をお知らせください。
- ◆当日予約や休日(日・祝)の宿泊も可能です。
- ◆夜間や休日は転送電話での対応になりますので、急患などの場合を除き、なるべく受付時間内にご予約・お問い合わせください。

ファミリーハウスあomorい

〒030-0913
青森市東造道1-3-1
<https://www.familyhouse-aomori.jp/>



【管理・運営】NPO法人青森地域再生コモンズ